

連続講座「加納家と一宮」第1回



幕末・明治の一宮と加納家

2019年2月に没後100年を迎える元一宮町長・加納久宜。その節目の年に向けて、今年度は6回に亘って、加納家と一宮の歴史を学ぶ、連続講座「加納家と一宮」を開催します。

第1回目の今回の講座は、新発見の一宮関係の資料を2人の講師の方から、ご紹介いただきます。新しい角度から、一宮と加納家の歴史に迫ります。



▲「秦恒邸宅」(『千葉県博覧図』)

(『目で見える千葉県の明治時代 千葉県博覧図(中)』(国書刊行会、1986年))

○とき 平成30年5月26日(土)

午後1時30分～(午後1時受付開始、2時間程度)

○ところ 一宮町中央公民館・大会議室

○テーマ・講師

①「布佐村陣屋からみえる幕末の一宮

一金沢甚衛旧蔵「御料私領御用留」の紹介にかえて一」

講師：古畑侑亮氏(公益財団法人大倉精神文化研究所)

②「旧藩主から町長へ 一加納家関係資料を探す一」

講師：小田真裕氏(船橋市郷土資料館)

○問合せ 一宮町教育委員会

42-1416

※参加無料、定員はありませんので、どなたでもご参加できます。

連続講座「加納家と一宮」

第1回「幕末・明治の一宮と加納家」



《講座の概要紹介》

①「布佐村陣屋からみえる幕末の一宮」

ふさむらじんや ばくまつ いちのみや
—金沢甚衛旧蔵「御料私領御用留」の紹介にかえて—

こうし ふるはたゆうすけし
講師：古畑侑亮氏

こうえきざいだんほうじんおおくらせいしんぶん かけんきゅうしよひじょうきんしよくいん
(公益財団法人大倉精神文化研究所非常勤職員)

しもうさのくに ふさむら げんちばけん あびこし ばくまつ めいじしよき
下総国布佐村(現千葉県我孫子市)は幕末から明治初期にかけて、

いちのみやはん いちのみやけん かんかつちいき こうざ こうえきざいだんほうじんおおくらせいしん
一宮藩・一宮県の管轄地域でした。この講座では公益財団法人大倉精神

ぶんかけんきゅうしよ かながわけんよこはまし しよぞう ふさむら ごようどめ はん はつきゅう
文化研究所(神奈川県横浜市)が所蔵する布佐村の「御用留(藩などが発給

こうぶんしよ ひか しょうかい じったい とお どうじ いちのみやはんせい み
した公文書の控え)」を紹介。その実態を通して、当時の一宮藩政を見て

いきます。

②「旧藩主から町長へ —加納家関係資料を探す—」

こうし おだまさひろし ふなばししきょうどしりょうかんしゅにんしゅじ がくげいいん
講師：小田真裕氏(船橋市郷土資料館主任主事(学芸員))

かのうひさよし さいご いちのみやはんしゅ めいじまつき いちのみやちょうちょう
加納久宜(1848~1919)は最後の一宮藩主で、明治末期には一宮町長

じんぶつ こうざ げんざいむつざわちようりつれきしみんぞくしりょうかん きたく
もつとめた人物です。この講座では現在睦沢町立歴史民俗資料館に寄託さ

しりょう なか かのうけ しりょう しょうかい ひさよし どうし ちょうせい
れている資料の中から、加納家に関する資料を紹介し、久宜や当時の町政

せま
に迫ります。